

73億円の使い道、町民が主役



平成23年度の町の予算が、町議会の審議を経て決定しました。予算の総額は、73億1,280万円で前年度比4.1%の増となりました。行政サービスの中心となる一般会計は、49億4,900万円で前年度比6.1%の増となっています。主なものは、昨年度より実施している町営住宅の建て替え事業でまちなか団地（旧営林署跡地16戸）を建設するとともに、特定公共賃貸住宅（緑町8戸、新町4戸）の建設も行っています。また、鹿害対策として、今年度も鹿侵入防止柵25kmの整備を進めています。町は、厳しい財政状況の中、対話を進めながら中心市街地の活性化を進め「町は舞台、町民が主役」のまちづくりを推進していきます。今月の特集では、このまちづくりを進めていく町の予算内容について紹介します。

【表1】平成23年度会計別予算額の内訳

会計名	予算額	前年度比
一般会計	49億4,900万円	6.1%増
特別会計	国民健康保険事業特別会計	9億1,980万円 0.8%減
	老人保健事業特別会計	0万円 皆減
	後期高齢者医療事業特別会計	7,570万円 6.3%減
	介護保険事業特別会計	4億4,690万円 2.0%増
	介護サービス事業特別会計	2億7,600万円 0.8%増
	下水道事業特別会計	3億8,970万円 1.4%増
	簡易水道事業特別会計	5,090万円 24.4%増
企業会計	上水道事業会計	2億480万円 4.7%減
合計	73億1,280万円	4.1%増

一般計 前年度対比で6.1%の増
 特別会計 前年規模を上回る特別会計

町の予算は「一般会計」「特別会計」「企業会計」に分れています。中でも町民の生活全般にわたる施策を行うために経理するのが「一般会計」です。
 平成23年度の一般会計の予算額は、右表のとおり49億4,900万円で対前年度比6.1%の増になりました。今回は23年度地方財政計画に基づき前年同様歳入歳出の精査と見直しを行い、そのものの必要性を検討しました。
 後期高齢者医療事業特別会計は広域連合納付金の減額により6.3%の減、簡易水道事業特別会計は給水施設整備事業及び地方債償還金の増額により24.4%の増、老人保健事業特別会計については後期高齢者医療制度への移行に伴い平成22年度をもって廃止となりました。企業会計の上水道事業会計は企業債償還金の減額により4.7%の減です。

グラフ1 一般会計予算額の科目別内訳

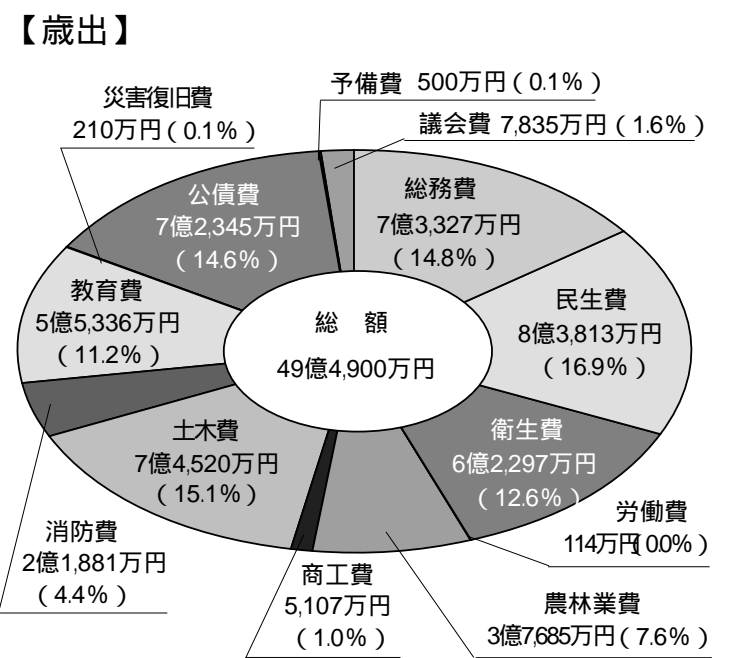
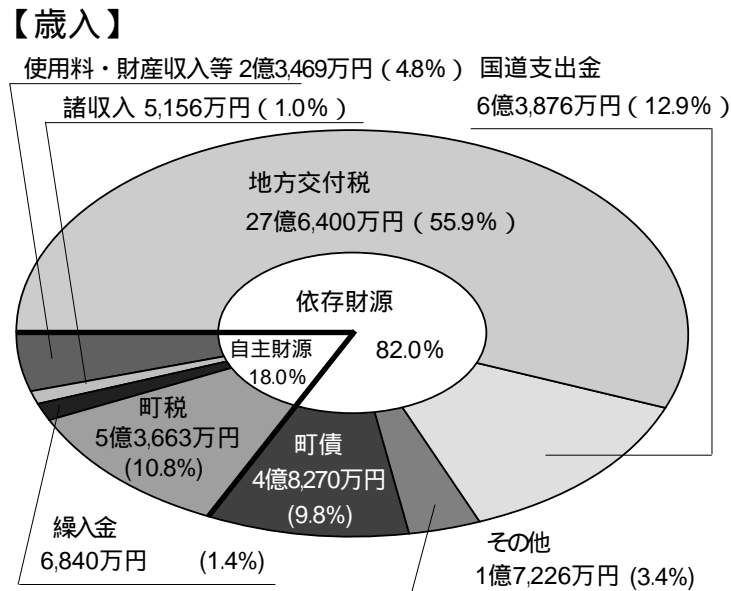
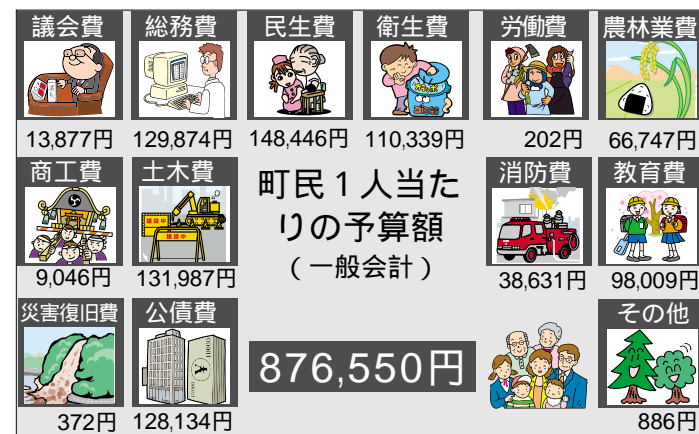


表2 町民1人当たり予算額



平成22年国勢調査（速報値）人口5,646人で計算しています。

【存源】 歳入の55.9%を占める地方交付税

一般会計予算額を科目別にみたのが左のグラフ1で、歳入は上の円グラフです。国から交付される地方交付税が27億6,400万円で（前年対比3.9%増）歳入の55.9%を占めています。これに国道支出金、地方譲与税、町債などを加えたのが依存財源といわれているもので、歳入全体の82.0%を占めています。一方、自主財源のうち町税は、5億3,663万円で前年度より7.1%増加しています。

【民算】 町民一人当たり予算額87万7千円

また、基金繰入金は極力抑え、前年度より58.2%減の6,840万円としました。この取り崩しで22年度末の一般会計の基金残高は、積立分も含め32億1,026万円となる予定です。
 その下の円グラフは歳出を科目ごとに表しています。歳出の14.6%を占める公債費は、各種事業を実施したときに借りたお金の償還金で約7億2,345万円を支払うこととなりますが、昨年度から比較すると約1億2,692万円減額になっています。総務費では、今後の住みよいまちづく

りの参考とするための住民満足度調査に36万円、人づくり・まちづくり研修事業に4,044万円を計上しました。民生費では、子ども手当等扶助費（3歳児未満（4月～1月分）は1万3,000円から2万円に増額）に875.0万円、衛生費は、子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌ワクチン接種料の助成に72.4万円、農林業費は、木材工芸館前庭の改修工事に68.5万円、木質ペレットストーブの導入支援として110万円を計上。土木費では、町営住宅豊永団地4戸の屋根・外壁張替改修工事に126.6万円、消防費には、防寒服110

また、表2は今年の一般会計の予算額を町民1人当たりで割り返した金額です。5,646人の町民1人当たりの金額は、87万6,550円になります。それぞれの科目に振り分けられた予算は、まちづくりやみなさんの暮らしを豊かにするために使われます。